記者発表資料

平成１８年度予算概算要求に関する
東北地方整備局の事業概要

～『強く美しい東北』を目指して～

平成１７年8月２９日

東 北 地 方 整 備 局

問い合わせ先

国土交通省　東北地方整備局
（港湾空港関係以外）TEL 022-225-2171（代）
（港 湾 空 港 関 係）TEL 022-716-0005（ﾀﾞｲﾔﾙｲﾝ）

総　　括：企画部　企画課長	矢崎（やざき）　剛吉	（内線3151）
都市・住宅		
公園関係：建政部　都市･住宅整備課長	岩崎（いわさき）　宏和	（内線6161）
河川関係：河川部　河川計画課長	近藤（こんどう）　修	（内線3611）
道路関係：道路部　道路計画第一課長	林（はやし）　雄一郎	（内線4211）
港湾空港関係：港湾空港部　港湾計画課長	麻山（あさやま）　健太郎	（内線6311）
営繕関係：営繕部　計画課長	平田（ひらた）　哲人	（内線5151）
用地関係：用地部　用地第一課長	渡瀬（わたせ）　友博	（内線4751）
会計関係：総務部　会計課長	大曽根（おおぞね）　城次	（内線2411）

※本紙は再生紙を使用しております

平成１８年度概算要求に関する
東北地方整備局の事業概要

～『強く美しい東北』を目指して～

目　　次

１．平成１８年度予算概算要求に関する基本方針　……　1

２．概算要求に関する主要施策・事業　……　3

３．地域との対話の重視　……　25

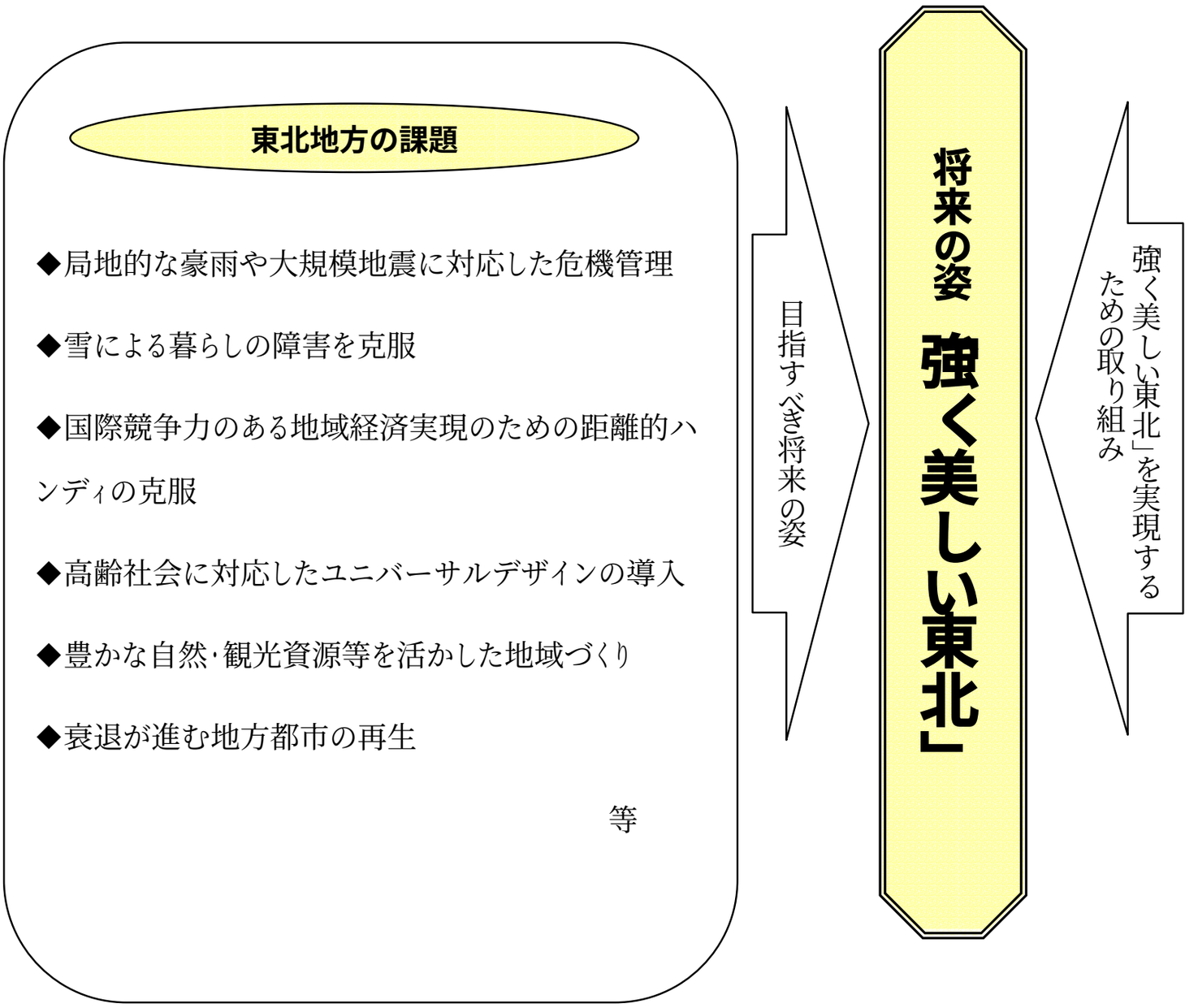
４．効率的な事業執行　……　26

１．平成１８年度
予算概算要求に関する基本方針

東北地方整備局では平成16年3月に『社会資本整備に係る東北地方の将来の姿～「強く美しい東北」を目指して～』を策定し、具体的な整備目標を掲げ社会資本整備を進めているところです。

平成18年度概算要求にあたっても、この将来の姿を見据えて計画的かつ着実な社会資本整備を目指します。

『社会資本整備に係る東北地方の将来の姿～「強く美しい東北」を目指して～』
（概　要　図）



実現するための『4つの基本方針』

安全で安心できる地域づくり

あらゆる災害や豪雪に対応した施設整備とソフト対策の推進、ユニバーサルデザインの導入などにより、誰もが快適で暮らしやすい**「安全で安心できる地域づくり」**を目指します。

強い東北の創造

産業の自立した発展を支えるため、物流の効率化、人と情報の交流・連携を支える社会基盤の整備を進め、**「強い東北の創造」**を目指します。

美しい東北の実現

循環型社会を構築するとともに、美しい山河、豊かな自然、独特な文化を適切に保全し、観光等に有効活用し、周辺環境と調和のとれた**「美しい東北の実現」**を目指します。

魅力ある都市づくり

自然や環境との共生、職住近接、土地利用の高度化などにより、効率的で持続可能な都市を形成するとともに、歴史や文化を活かした個性を持つ**「魅力ある都市づくり」**を目指します。

地域との対話の重視　　**効率的な事業執行**

2．概算要求に関する主要施策・事業

＜安全で安心できる地域づくり＞

重点事項：あらゆる災害に強い安全な地域づくり

主な目標

①河川氾濫や高潮、土砂災害、火山活動などの災害を防ぐため、堤防やダムの整備等を進めます。
②大規模地震や津波に備え、土木施設及び建築物の耐震化や防波堤の整備等を図るとともに、緊急物資の輸送を可能とする安全で信頼性の高い道路網の形成、耐震強化岸壁を備えた港湾の整備等を図ります。
③災害時に迅速な対応を行えるよう、ＩＴを活用した情報基盤の整備を進めるとともに、地域や関係機関と情報共有を図るなど、危機管理体制の充実を図ります。

目標達成のためのH18年度の具体的な施策の例

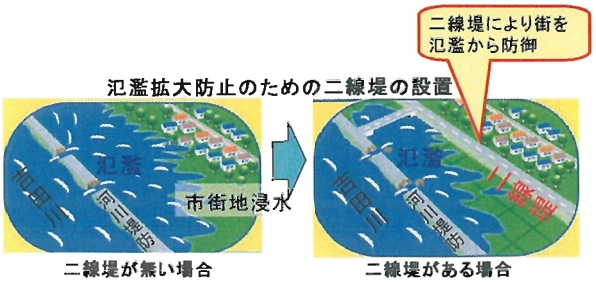
頻発する洪水・土砂災害等への対応

・頻発する集中豪雨による河川氾濫を防ぐため、事業の早期完成・効果発現が可能な河川改修・ダム等について重点的に整備を進めます。

（具体箇所例）
直轄： 鳴瀬川水系下志田（しもしだ）地区（二線堤）直轄河川改修事業　　（別冊P．9）

●二線堤の整備効果





二線堤の整備により、100年に1回規模の洪水から町を守ります
鹿島台地区の整備効果
浸水家屋　858戸　➡　0戸
浸水面積　231ha　➡　0ha

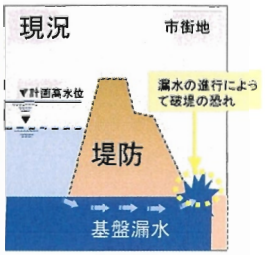
（具体箇所例）

直轄：堤防質的整備（子吉川本荘地区）　（別冊P. 12）

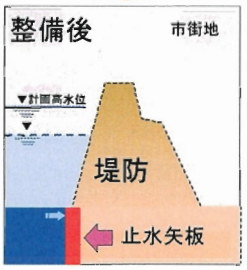
●本荘地区堤防の質的整備



▲堤防の質的整備によって、市街地を氾濫から守ります



◀漏水により堤防が決壊する可能性があります



◀止水矢板により堤体基盤となる地盤への浸透を抑制します

（具体箇所例）

直轄：　長井ダム建設事業　（別冊P. 10）

　　森吉山ダム建設事業　（別冊P. 11）

●森吉山ダム建設事業



◀昭和47年7月洪水による旧鷹巣町の床上浸水被害



▲森吉山ダム完成イメージ図

・堤防整備十ヶ年計画に基づく事業の重点化（新規）

昨年度の水害の頻発を受け、今後の河川整備にあたっては、地域社会に大きな影響を及ぼす地区を重点的に整備することが重要です。このため、新たに堤防整備十ヶ年計画を策定し、堤防の量的整備・質的整備を一体的に行っていくなど、本計画に基づいた堤防整備に着手します。

・津波対策五ヶ年計画（河川）に基づく事業の戦略的実施（新規）

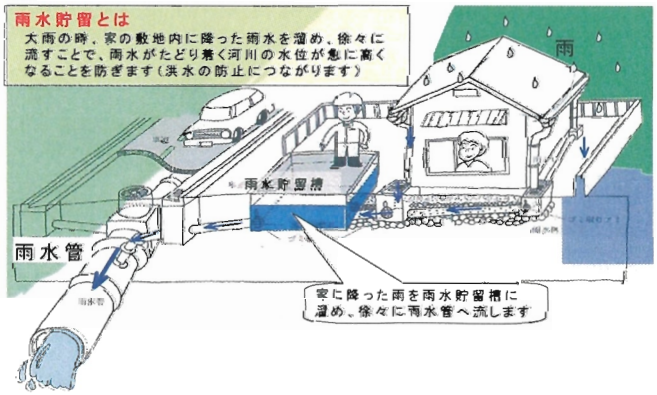
太平洋側に河口を持つ直轄河川において、今年度中に津波対策五ヶ年計画を策定し、本計画に基づき高潮堤防の整備や河川管理施設の機能確保等に着手します。

・住民と連携し、雨水貯留浸透施設の設置を促進し、雨水の流出抑制を行います。

（具体箇所例）

補助：　塩竈（しおがま）市都市水環境整備事業（宮城県塩竈市）　（別冊P. 35）

●雨水貯留浸透施設（イメージ図）



◀住民の協力を得ながら、一時的に雨水を貯める施設を私有地内に整備し、大雨の時、市街地が水に浸かるのを防ぎます。

・土石流や地すべり等の土砂災害から、人命や財産、重要交通網等ライフラインを保全するための施設整備を進めます。

（具体箇所例）

直轄：最上川水系直轄砂防事業　朴木沢（ほうきさわ）第二砂防えん堤　（別冊P. 14）

八幡平山系直轄砂防事業　澄川（すみかわ）第二砂防えん堤　（別冊P. 16）

補助：矢崎（やざき）の沢（さわ）通常砂防事業　（別冊P. 20）

●砂防えん堤により集落・ライフラインを守ります（朴木沢第二砂防えん堤）



▲砂防えん堤により、鮭川流域の集落及び一般国道13号・JR奥羽本線を保全します

・平成8年度に実施した「豪雨・豪雪等に対する道路防災総点検」の結果に基づき、対策が必要な諸施設のうち、落石防護・法面保護などの道路防災対策を推進します。

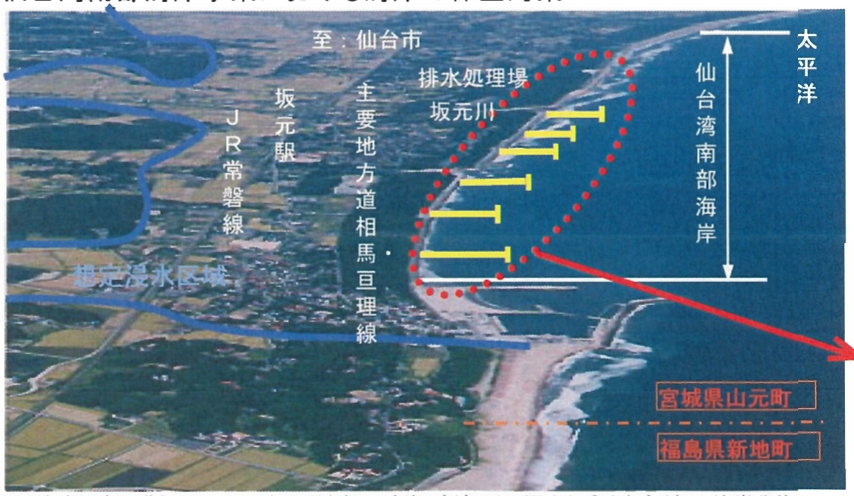
・護岸・人工浜・離岸堤等を整備し、侵食が進行している海岸の汀線の防護と高潮・高波による浸水防止、海岸利用の向上を目指します。

（具体箇所例）

直轄：仙台湾南部海岸　海岸保全施設整備事業

補助：向（むかい）平（たいら）海岸局部海岸事業　（別冊P. 28）

●仙台湾南部海岸事業における海岸の保全対策



▲海岸侵食の進行によって、砂浜が消失し、高潮・高波による浸水を受けやすくなり、海岸背後の一般家屋や主要地方道、鉄道が浸水被害を被る恐れがあります。



▲急激に進む海岸侵食によって海岸保全施設が被災（H3）



▲整備により失われた砂浜が復元され海岸を保全

・地域防災情報ネット（河川）の構築（新規）

地域防災力の向上に取り組む市町村の支援を目的として、画像情報等の分かりやすい防災情報を収集・伝達するための情報機器を緊急的に整備するとともに、光ファイバ網を市町村と接続し、双方向で確実に防災情報を伝達・収集する体制を構築します。

切迫する宮城県沖地震と津波への対応

・都市の防災機能向上を図るため、都市計画道路並びに電線共同溝等の整備を推進します。

（具体箇所例）

補助：仙台駅東第二土地区画整理事業（仙台市）
　　仙台市あすと長町土地区画整理事業（仙台市）

●幅広の都市計画道路の整備によって空間を確保し、迅速な避難に資するとともに火災の延焼を防止します



▲平成7年1月兵庫県南部地震（神戸市HPより）



▲密集市街地の区画整理によって、幅広の道路用地が確保されつつある都市計画道路　元寺小路福室線。

（具体事例）

●地震に強いライフラインを確保



▲地震による電柱の倒壊で、電気・電話等ライフラインが寸断（イメージ）

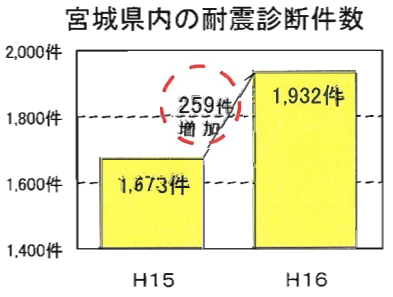


▲地中の電線共同溝内に電線・電話線等が収納されるため、地震に強いライフラインが確保されます。

・一般家屋耐震改修の推進（新規）

「住宅・建築物耐震改修等事業」などによる戸建て住宅の耐震改修にあたっては、東南海・南海地震防災対策推進地域等の大規模地震発生の危険性が高い地域が要件でしたが、耐震改修を推進するためこの要件を撤廃し、また新たに擁壁の耐震化を補助対象として追加します。

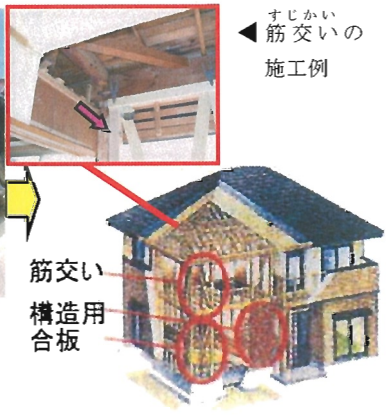
●一般家屋の耐震診断と耐震改修（住宅・建築物耐震改修等事業など）



▲宮城県内の耐震診断件数は、増加傾向



▲H15宮城県北部連続地震で倒壊した家屋。道路上に倒壊したため一時通行止めとなった



▲一般家屋の耐震改修イメージ

・緊急輸送路に指定されている橋梁や、緊急物資集積等の防災拠点となる岸壁の耐震化・補強を積極的に進めます。また地震等に対して安全な交通が確保できるよう道路の維持管理を計画的継続的に行います。

（具体箇所例）

直轄：　一般国道４５号　歌津（うたつ）大橋耐震補強

仙台塩釜港仙台港区　中野地区耐震強化岸壁　　（別冊P. 32）

補助：　釜石港須賀（すか）地区耐震強化岸壁　　（別冊P. 31）

●橋梁の耐震補強（一般国道45号　歌津大橋）



▲大きな地震に耐え、緊急輸送道路が確保できるよう耐震補強を実施

●岸壁の耐震化（仙台塩釜港仙台港区）

▼阪神淡路大震災における港湾活用の緊急物資輸送の例





▲大規模震災時における緊急物資の海上輸送の確保

・非常時・応急復旧時における緊急物資輸送路や主要幹線道路の代替ルートを確保するため、高規格幹線道路等の整備を進めます。

（具体的事例）

●一般国道45号の代替ルートとして機能する大船渡三陸道路（H17.3供用済）



・津波被害の軽減を図るため、湾口防波堤及び堤防・防潮水門等の整備を進めます。

（具体箇所例）

直轄：　釜石港湾口地区防波堤整備事業　（別冊P. 31）

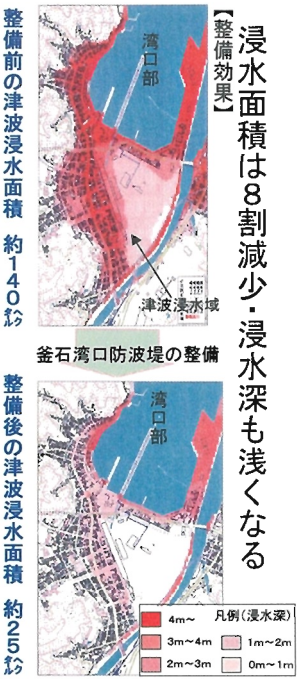
補助：　地震・高潮等対策河川事業（小槌川（こづちがわ）［岩手県］他４河川［宮城県］）

：　宮古港海岸高浜地区高潮対策事業（別冊P. 34）

●釜石湾口防波堤による津波被害の軽減



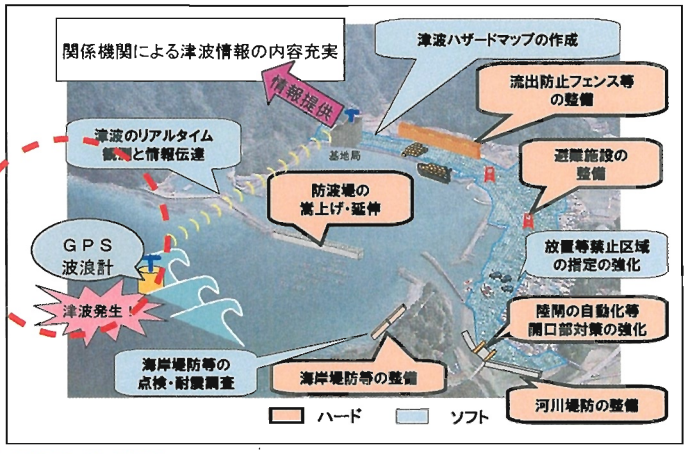
※湾口防波堤未整備時の津波浸水区域（明治三陸津波）



▲湾口防波堤の整備により釜石市街区の津波の浸水面積を大幅に減少（浸水面積が8割減少）。

・三陸地方沿岸を襲う津波に対して、GPS波浪計の導入による沖合での波浪観測高度化により、迅速な情報等の把握や活用に取り組みます。

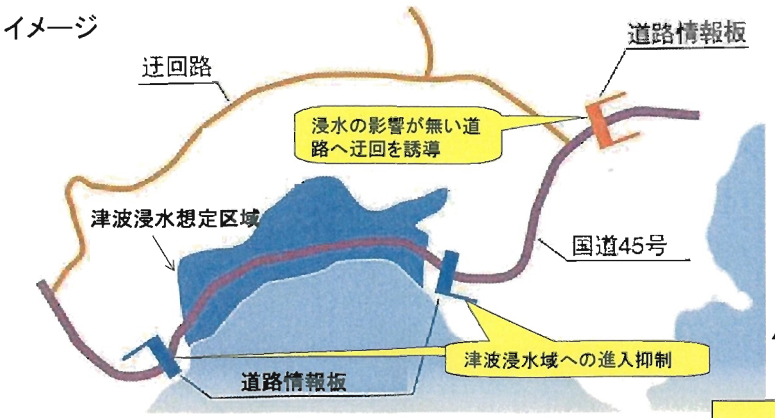
●GPS波浪計による沖合の津波等観測と港湾・沿岸域の津波対策（イメージ）



・道路情報板ガイダンスシステムの本格運用（新規）

津波情報、地震情報などを正確かつリアルタイムに道路情報板で提供するシステムを地整内道路関係事務所にて、本格的に運用します。

●道路情報板へ迅速に津波警報等情報を表示し、道路利用者等の安全を確保



▲道路情報板に津波警報等を表示し道路利用者の安全を確保します



▲道路情報板で津波情報を道路利用者等に伝達

…　道路利用者の安全確保に期待される効果

＜安全で安心できる地域づくり＞

重点事項：雪に強く、安心で快適な地域づくり

主な目標

①雪による暮らしの障害を克服するため、冬期歩行空間確保など冬期バリアフリー※対策を進めます。
②地域間の交流・連携を促進するため、豪雪や地吹雪などに対する除排雪の強化等雪対策を行います。

※冬期バリアフリー：積雪によって歩道の幅員が減少したり、凍結によって転倒しやすくなるなどといった、冬期特有の雪による障害を軽減すること。

目標達成のためのH18年度の具体的な施策の例

・冬期間の安全で快適な歩行空間を確保するため、消融雪施設等の整備と併せて地域と連携、協働した歩道除雪を推進します。

（具体箇所例）

青森市地区冬期バリアフリー事業
補助：特別豪雪地帯・三十万人都市 青森市における雪に強い生活空間の形成（地方道路交付金事業）

●市民団体（雪みち観察隊※）と協働し、安全で快適な歩道を確保



歩道もバス停も雪で埋まり、歩道幅員が減少（青森市）。



雪みち観察委員会からの提案を受け、消融雪範囲を変更して整備



▲女性・利用者の視点から意見を事業に反映

※雪みち観察隊：女性の視点や利用者の視点で雪道を見てもらい、ご意見を伺おうと平成14年1月に編成。子供から学生、会社員、主婦等幅広い年齢層からなる女性グループ。

・冬期間の生活環境の改善を図るため、消流雪用水導入事業によって必要な流雪水量を確保し、除排雪作業の効率を高めます。また、地下埋設下水管の熱エネルギーを利用し、既設下水道を流雪溝として活用を図ります。

（具体箇所例）

直轄：最上川清水地区消流雪用水導入事業　（別冊P. 38）
新世代下水道支援事業（リサイクル推進事業）（青森市）

●消流雪用水導入による冬の生活環境が改善（山形県真室川町の事例）

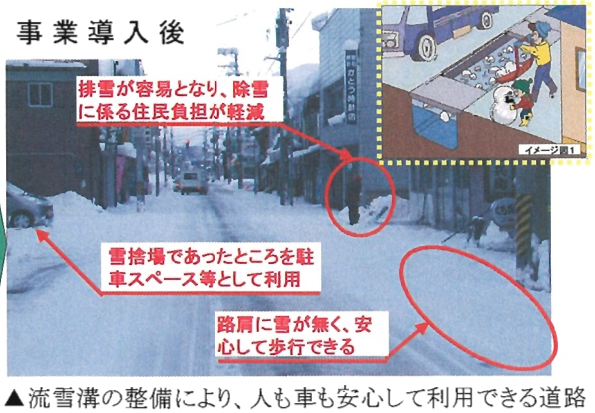
事業導入前



▲雪のため、住民が安心して利用できない道路

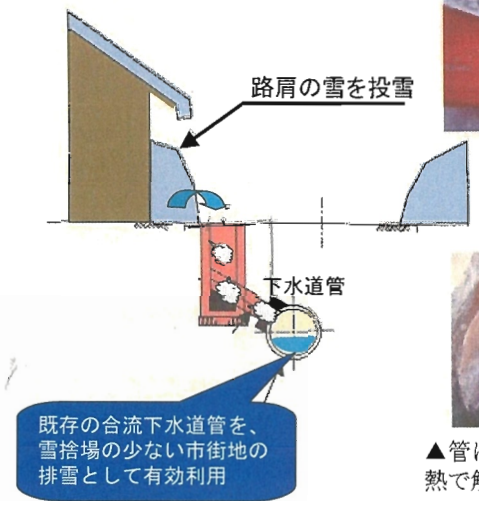
事業導入後

水量の確保により、雪を流しやすい



▲流雪溝の整備により、人も車も安心して利用できる道路

●下水道管を利用した市街地における除雪対策（青森市）



▲下水道管の熱エネルギーを利用し、除排雪に係わる住民の負担軽減を図ります

投雪状況



▲投雪口を設置し、下水管へ投雪

流下状況



▲管に入った雪は、下水の熱で解けながら流れます

事業導入前（イメージ）



▲雪が両脇に積み上げられた危険な雪道

事業導入後（イメージ）



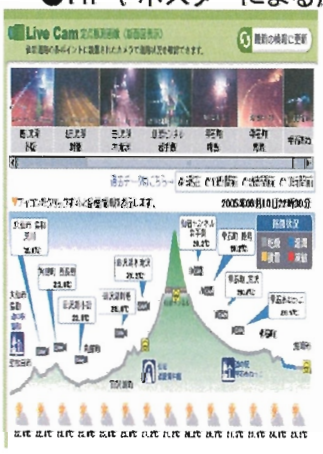
▲排雪が容易となり住民の除雪負担も軽減

・冬期事故削減対策として、広報、啓発活動などを推進します。

（具体箇所例）

冬期道路サービス向上に向けた取り組み（秋田県内）

●HPやポスターによる広報活動

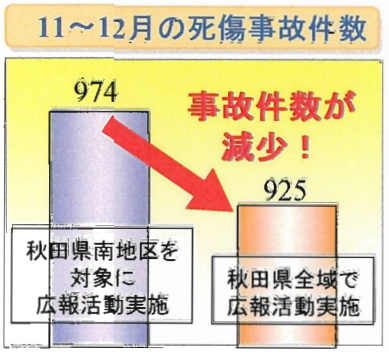


▲冬期の路面状況についてHPにより情報提供



▲初冬期における事故防止を呼びかけるポスター

●広報、啓発活動による対策効果

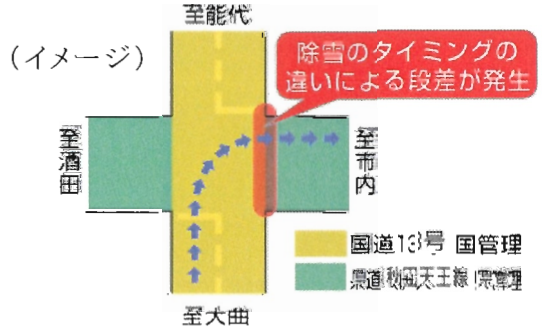


▲秋田県内全域の初冬期の事故減少

「資料：秋田県警察本部事故統計」

・冬期間の安全な交通を確保するため、国・県・市町村が連携して道路の除排雪を推進します。また、除雪車の後に続く車輌へ情報を提供し、道路利用者の通行の便に供していきます。

●国・県・市町村が連携し、交差点箇所における除雪の問題を解消



▲主要交差点の除雪を国・県・市町村が連携することで、除雪のタイミングの違いによる段差を解消

●除雪車後部の情報表示により、ドライバーのイライラ感を解消



▲除雪車後方表示装置

▲除雪車に続く車輌に対し、次に待避するまでの距離等を示すことで、心理的にドライバーのイライラの緩和を図り、無理な追い越しを防止

＜安全で安心できる地域づくり＞

重点事項：高齢社会等に対応した安心して生活できる地域づくり

主な目標

誰もが安全・快適に暮らせる生活環境づくりを進めるため、交通事故対策や公共空間、住宅・建築物におけるユニバーサルデザイン※1の導入などを行います。

※1　ユニバーサルデザイン：すべての人が利用可能であるように製品、建物、空間をデザインすること。

目標達成のためのH18年度の具体的な施策の例

・より効果的･効率的に交通事故を削減するため、死傷事故率の高い地区・箇所等※2の交通事故対策を重点的に進めます。

※2 死傷事故率の高い地区・箇所等：「事故危険箇所」・「あんしん歩行エリア」及び「優先度明示方式」により抽出（重点対策区間内より抽出）された死傷事故率の高い箇所を指します。

（具体箇所例）

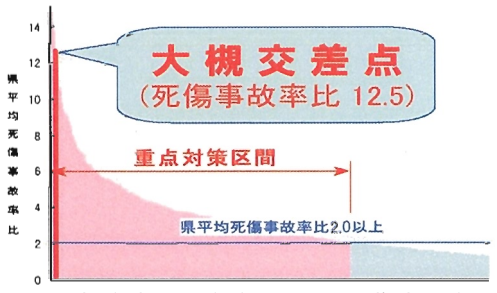
直轄：一般国道	4号	大槻（おおつき）交差点改良	（別冊P. 39）
	一般国道112号	南一番町歩道	（別冊P. 40）

●大槻交差点改良：優先度明示方式※3・「事故危険箇所」※4対策

大槻交差点は、死傷事故が岩手県平均の約12.5倍の確率で発生し、また「事故危険箇所」にも指定されています。

※3 優先度明示方式：死傷事故に遭う確率の県平均に対する倍率が高い順に並べて優先的に事故対策すべき区間を明示・抽出する方式です

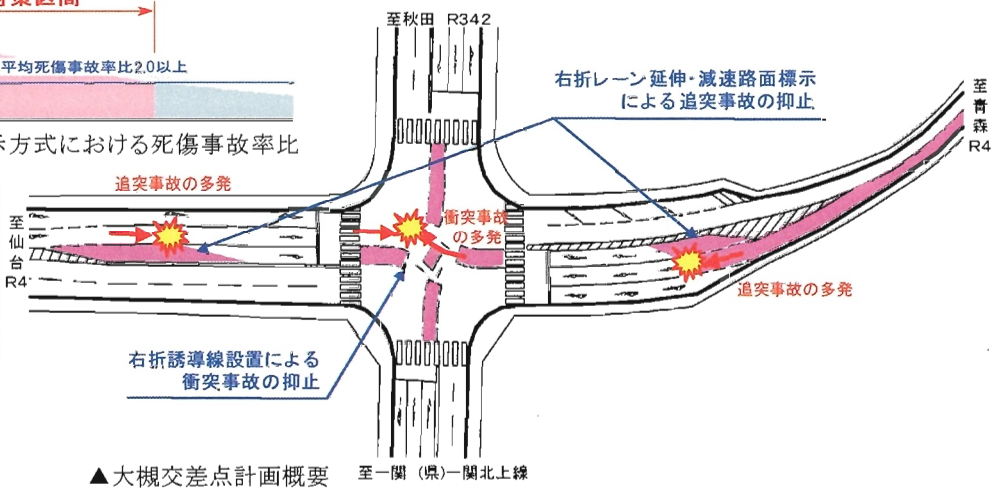
※4 事故危険箇所：死傷事故に遭う確率が全国の幹線道路平均の5倍以上の箇所等を選定。全国約4,000箇所、東北142箇所あります



▲優先度明示方式における死傷事故率比



▲大槻交差点付近での渋滞状況



▲大槻交差点計画概要

●南一番町歩道：「あんしん歩行エリア※5」における安全な歩行空間の確保

※5 あんしん歩行エリア：単位面積あたりの事故発生割合の高い地区を選定。全国で約1,000地区、東北では56地区あります。

【歩道バリアフリー化の整備イメージ】



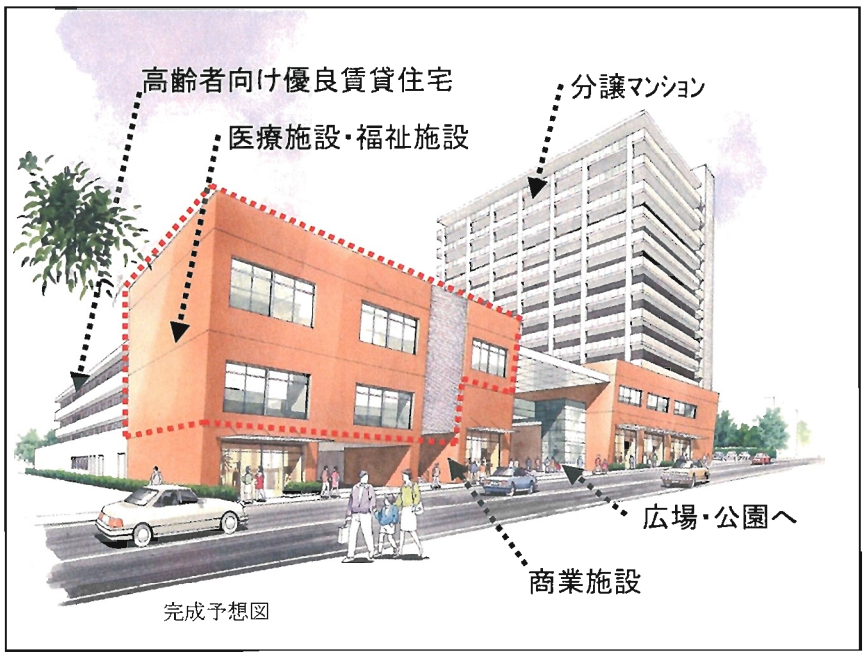
▲自転車や車いすがすれ違い可能な幅員の確保などのバリアフリー化により、安全な歩行空間の確保を図ります。

・高齢者が安心して快適な生活を過ごせるよう、福祉施設と連携した高齢者向け優良賃貸住宅の整備を進めます。

（具体箇所例）

補助：花城町（かじょうちょう）地区優良建築物等整備事業（岩手県花巻市）　（別冊P. 41）

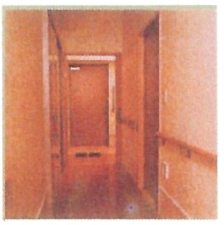
●高齢者向け優良賃貸住宅（花城町）



▲住宅、医療施設、高齢者福祉施設、商業施設の複合建築物のほか、交流スペースとして広場を設置し、周辺施設と一体となった交流空間を形成します



▲手すりの設置



▲広い廊下

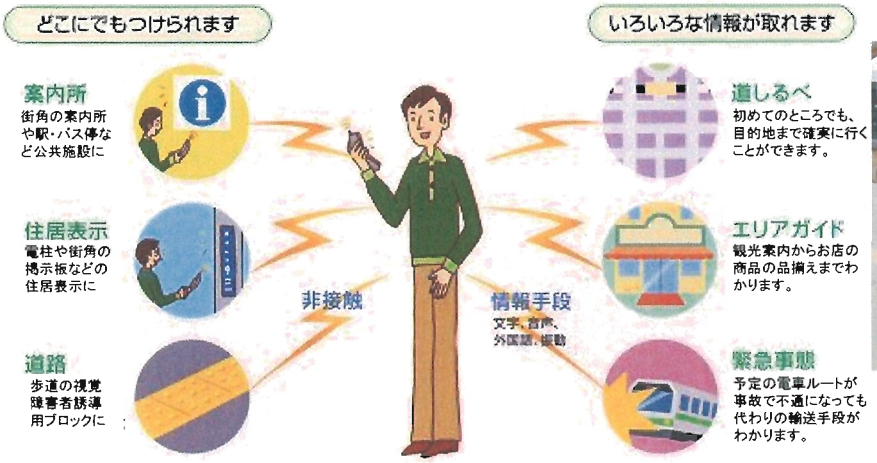


▲緊急時の対応サービス

・新しい情報通信技術を取り入れ、高齢者や障害者をはじめ、誰もが安心して移動できる快適な道路環境作りを目指します。

（具体箇所例）

●ゆきナビあおもりプロジェクト※（ユビキタス）



▲携帯情報端末機器（ユビキタス）から、道案内やバスの到着時間、さらに町の歴史や商店街の情報まで、音声と文字・写真で提供されます



▲ユビキタスを使用し、ICチップを埋込んだ点字ブロックを専用の白杖で触れると、位置情報や目的地までの経路を案内することが出来ます

※ゆきナビあおもりプロジェクト：豪雪地域である青森県では、冬期間でも高齢者や障害者が安心して移動でき、どこでも必要な情報を必要なときに入手できる「ユビキタスコンピューティング」の具現化に取り組んでいます。

＜強い東北の創造＞

重点事項：「縦」、「横」のネットワークによる広域的な交流・連携の推進

主な目標

①東北経済の発展等を支えるため、格子型の高速道路ネットワークの形成を図ります。
②地域間の交流・連携を図るため、都市間距離や峠越を克服します。
③空港、新幹線駅、インターチェンジ等の高速交通拠点へのアクセス機能の向上を図ります。

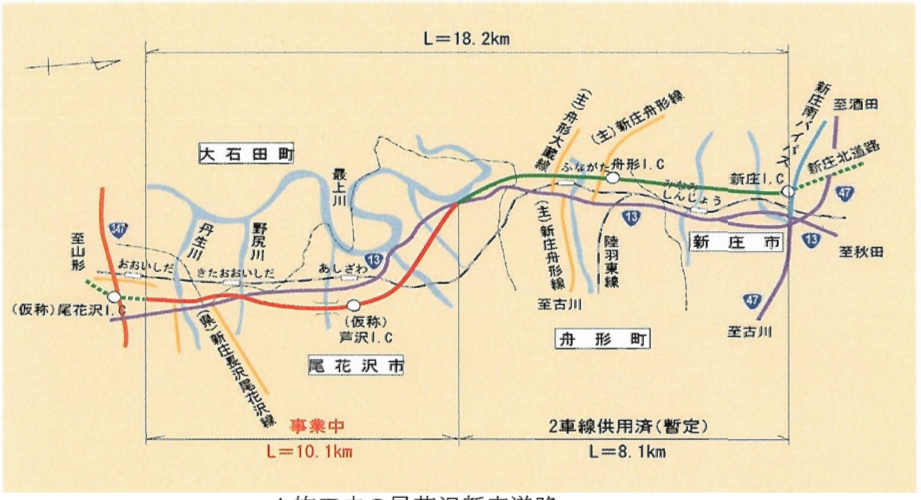
目標達成のためのH18年度の具体的な施策の例

・高規格幹線道路・地域高規格道路等の幹線道路を整備し、都市間所要時間の短縮を図り、都市と中山間地域の交流・連携の強化と広域的な生活圏の形成を支援します。

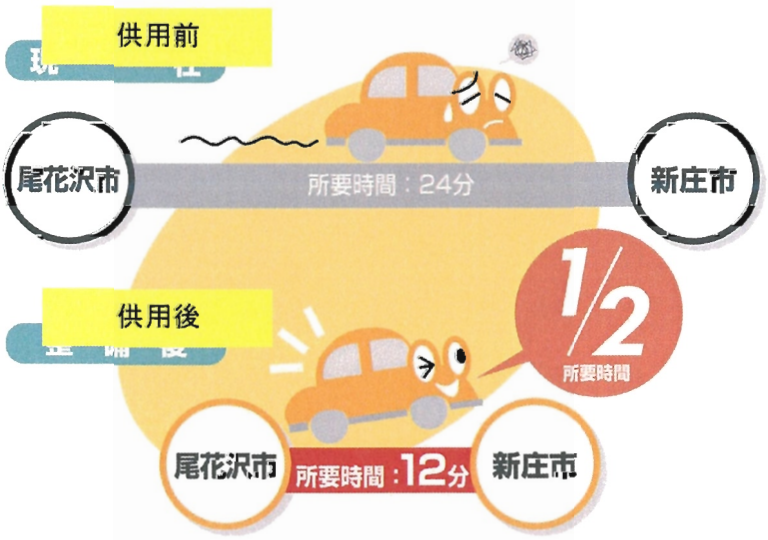
（具体箇所例）

直轄：一般国道 13号 尾花沢新庄道路 （別冊P. 44）
補助：一般国道105号 大曲西道路（地域高規格道路） （別冊P. 45）

●一般国道13号　尾花沢新庄道路



▲施工中の尾花沢新庄道路



▲尾花沢市～新庄市の所要時間
２４分（現況）→１２分（全線整備後）の短縮



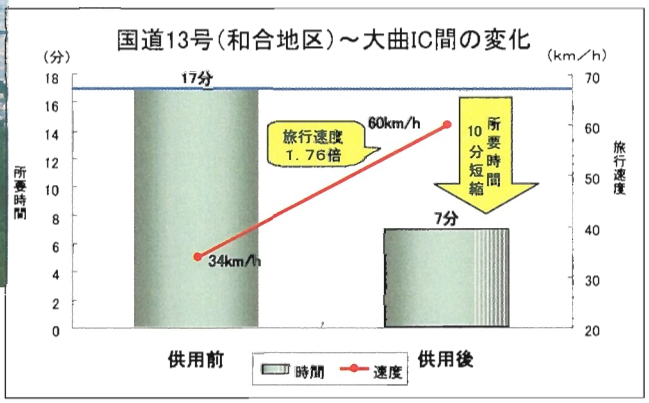
▲名木沢交差点付近における渋滞状況

●一般国道105号　大曲西道路





▲大仙市市街地方面へ渋滞が発生（大曲橋）



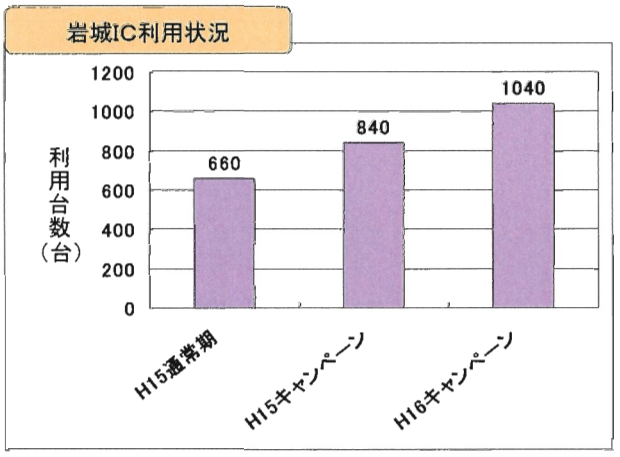
▲一般国道13号から高速交通拠点（大曲IC）までのアクセス機能が向上

・広域的な交流・連携を支援するため、高速道路利用者を対象とした周辺施設利用料金の割引や、ETCの利用促進に向けた通行料金割引などを推進します。

●高速道路利用促進に向けた施設割引

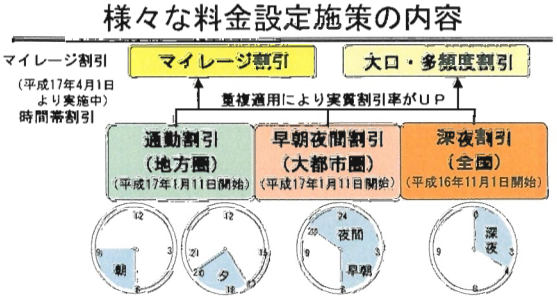


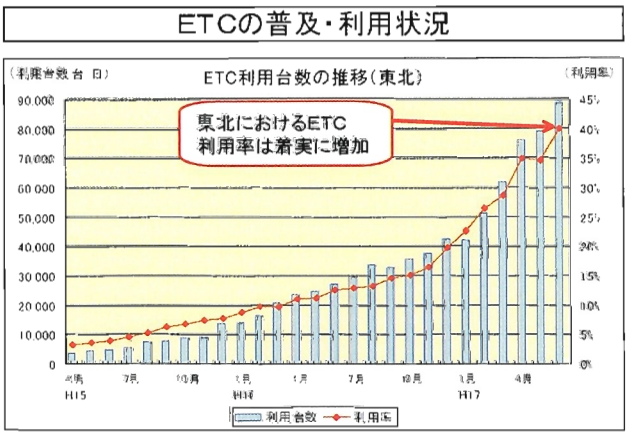
▲高速道路利用者に周辺施設の利用料金を割引



▲キャンペーンにより交通量が増大

●ETCの利用促進に向けた取り組み





▲多様で弾力的な料金設定施策等に取り組み、ＥＴＣの利用を促進します

＜強い東北の創造＞

重点事項：グローバル化に対応した「自立した経済システム」を支える基盤整備

主な目標

①産業競争力を強化するため、港湾の物流機能の充実、高速交通ネットワークの整備等を図り、物流のスピード向上、コストの低減、安全性・定時性・信頼性を確保します。

②利用者の利便性向上を図るため、港湾、空港等へのアクセス機能の向上などマルチモーダル交通体系※を構築します。

※マルチモーダル（交通体系）：道路や航空、海運、水運、鉄道など、複数の交通機関の連携を通じて、利用者の利便性に対応した効率的で良好な交通環境が提供される交通体系。

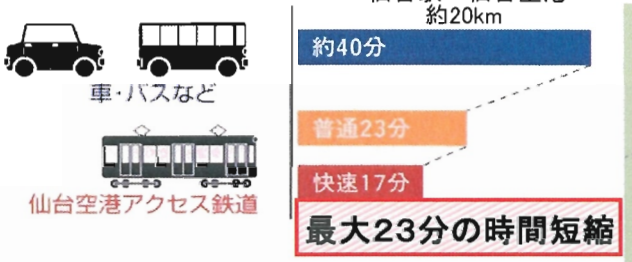
目標達成のためのH18年度の具体的な施策の例

・定時性・速達性などの空港アクセス機能を確保するため、都市から空港に直接乗り入れるアクセス鉄道の整備を進めます

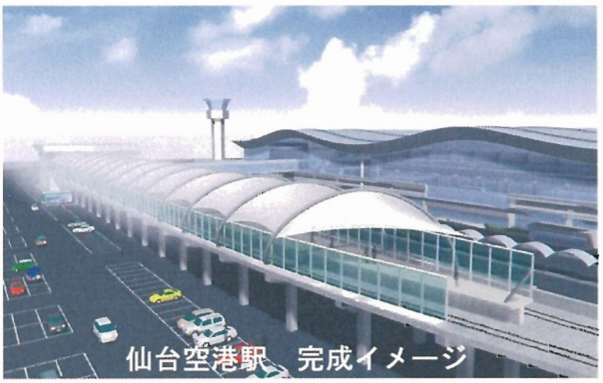
（具体箇所例）

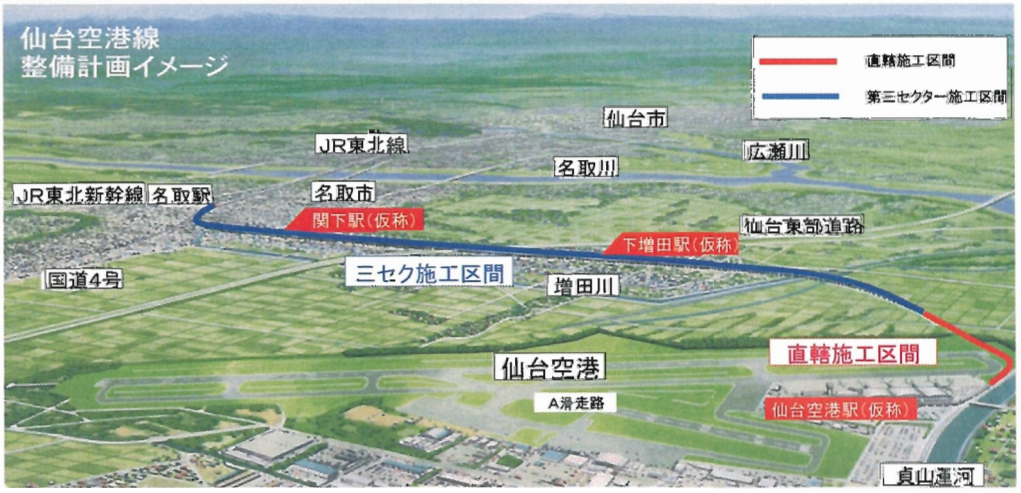
直轄：仙台空港アクセス鉄道　　（別冊P. 48）

●仙台空港アクセス鉄道の整備









▲仙台空港アクセス鉄道の整備により、空港へのアクセス時間が短縮されます

・産業競争力を強化するため、港湾の物流機能の充実、高速交通ネットワークの整備等を図り、物流コストの低減等を図ります。

（具体箇所例）

直轄：一般国道283号 仙人峠道路 （別冊P. 46）
補助：一般国道283号 仙人道路 （別冊P. 46）
釜石港須賀（すか）地区 多目的国際ターミナル （別冊P. 49）

●釜石港の物流機能充実とアクセス道路の整備



▲道路整備（仙人峠道路と仙人道路）と港湾整備（釜石港須賀地区多目的国際ターミナル）が連携し、物流の効率化に取り組み、国際的な産業競争力の強化を支援します

・大型船舶に対応した多目的国際ターミナルの整備や防波堤整備による港内の静穏度確保により、物流の効率化を支援します

（具体箇所例）

直轄：秋田港外港（がいこう）地区 防波堤整備 （別冊P. 47）
補助：石巻港 雲雀野（ひばりの）地区 多目的国際ターミナル

●秋田港外港地区における整備



▲多目的国際ターミナルの状況



※防波堤の整備によって港内の波の静穏度が向上し、航行船舶の安全性向上とターミナルでの積み卸しの効率化が図られます

＜美しい東北の実現＞

重点事項：東北らしい自然環境との共生

主な目標

①東北の豊かな自然・歴史・文化などを実感できる個性的なまちづくりや観光振興・交流拠点の整備を行います。
②生態系の保全などに配慮しながら、自然との共生・調和を目指した社会資本整備を図ります。
③地域の特性を活かして、利用しやすい親水空間の整備を行います。
④自然の豊かさを実感できるよう、流域環境・海域環境の保全及び改善を図ります。

目標達成のためのH18年度の具体的な施策の例

・東北の豊かな自然・歴史・文化などを実感できる個性的なまちづくりを進め、観光振興を支援します。

（具体箇所例）

直轄：一関遊水地事業
一般国道4号 平泉バイパス
北上川水系直轄総合水系環境整備事業（平泉町）　（別冊P. 50）

補助：ウォーキング・トレイル事業（平泉町）
毛越寺（もうつうじ）線身近なまちづくり支援街路事業（岩手県）

●岩手県平泉町における取り組み

平泉の歴史・文化を活かした地域振興を支援

歴史文化に満ちた水辺空間を活かして船着場や親水護岸等を整備



JR平泉駅と毛越寺を結ぶ周辺景観に配慮した道路空間の整備



平泉の歴史文化施設を巡る自然景観に配慮した木道等を整備





▼第三者による委員会の提言を受けて自然景観の保全に取り組んでいます



貴重な遺産を守るため計画を変更

堤防と国道を一体的に整備
（河川）一関遊水地事業
（道路）一般国道4号 平泉バイパス



・東北の豊かな自然環境を活かした都市公園の整備により、広域的な交流拠点の形成を目指します。

（具体箇所例）

直轄：草原エリア整備事業　国営みちのく杜の湖畔公園Ⅱ期地区　（別冊P. 54）

補助：都市公園整備事業　北野田（きたのだ）公園（秋田県秋田市）　（別冊P. 55）

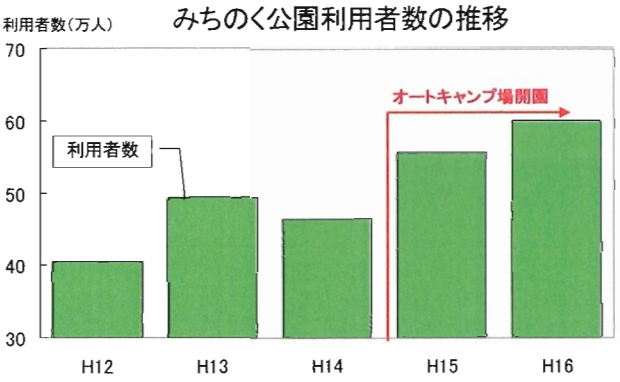
●国営みちのく杜の湖畔公園整備による交流拠点の形成



▲多くの家族連れで賑わう「みちのく公園」



▲整備を進めている「草原エリア」の利活用イメージ

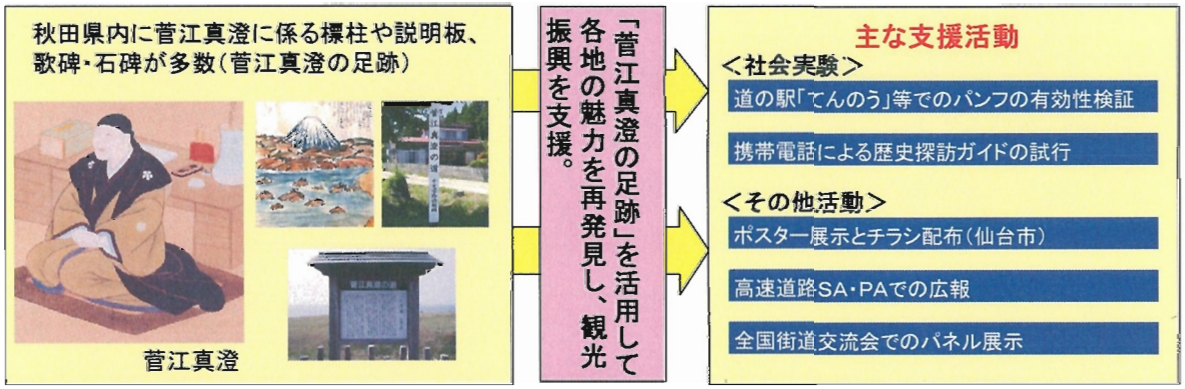


▲仙台都市圏の潤いエリアとして、オートキャンプ場の開園や各種キャンペーン等を実施し、着実に利用者数を拡大

・社会資本を積極的に利活用し、観光振興や地域活性化など地域の取り組みについて支援を進めます。

（取り組み例）

●菅江真澄（すがえますみ）の足跡と秋田再発見プロジェクト



▲東北各地に足を運びその土地々の風景画や見聞を記した江戸時代の紀行家「菅江真澄」の足跡を、秋田県内の観光資源を含めて広くPRすることで、地域の魅力を再発見し、観光振興を支援。

●みなとオアシス制度による「みなと」を中心とした交流の推進　（別冊P. 51）



▲みなとにおいて、人々が集い、憩い、潤える空間を「みなとオアシス」として認定し、住民参加による地域活性化の取り組みに対して、情報発信等により支援（H17.8現在、東北では7地区を認定）

・地域の特性を活かした利用しやすい親水空間の整備を推進します。

（具体箇所例）

直轄：本合海（もとあいかい）地区水辺プラザ整備事業（最上川水系直轄総合水系環境整備事業）





▲本合海で開催された環境芸術祭。豊かな自然と水辺空間を活かして毎年開催

▲豊かな自然環境を活かした水辺空間整備により、様々な活動が期待される

・生態系の保全に配慮しながら、自然との共生・調和を目指した社会資本整備を行います。

（具体箇所例）

直轄：名取川河川改修事業（藤塚地区）

一般国道２８９号　甲子（かし）道路

●名取川河川改修事業において、貴重な自然環境等を考慮して堤防計画を見直し

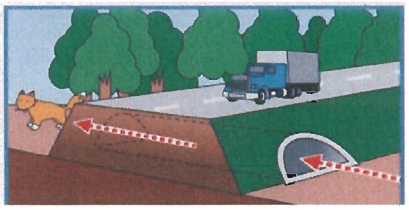




▲ヒヌマイトトンボ：体長3cm前後。河口近くの海水の影響があるような場所に生息。環境庁レッドデーターブック絶滅危惧種に指定。

▲浸水被害を受けている藤塚地区の治水対策（堤防整備）にあたり、貴重な自然環境の井土浦干潟の環境保全と貞山堀の歴史と自然が調和した景観を重視し、堤防計画を変更し事業を進めています

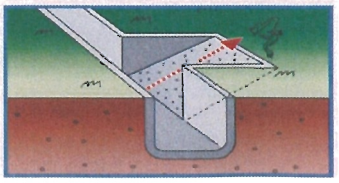
●一般国道289号甲子道路におけるエコロードの取り組み



▲大型の動物でも道路の反対側に行けるように、道路の下に動物の通り道を整備した例



▲カモシカ等の大型ほ乳類が通れる横断構造物



▲小動物が這い出せるような構造にした側溝の例



▲脱出可能なスロープ付き側溝

・侵食が著しい海岸において、自然環境に配慮した対策を行うとともに、併せて自然豊かな海辺に親しめるよう整備を進めます。

（具体箇所例）

補助：大湊（おおみなと）港海岸侵食対策事業（エコ・コースト※事業）　（別冊P. 53）

※エコ・コースト事業：海岸保全施設の整備に当たり、施設の配置や構造等に工夫を行うことにより、生態系や自然景観等周辺の自然環境に配慮した海岸整備を行う。

●大湊港海岸侵食対策事業（エコ・コースト事業）





▲大湊湾は日本最大のコクガンの越冬地と言われており、海岸防護と併せて「エコ・コースト事業」の導入により生態系など自然環境にも配慮した整備を行います

▲海岸防護対策と併せ、地域住民が海と親しめるよう階段護岸等も整備

・魚道の設置や淵・礫河原の再生などを図り、河川本来の自然を再生します。

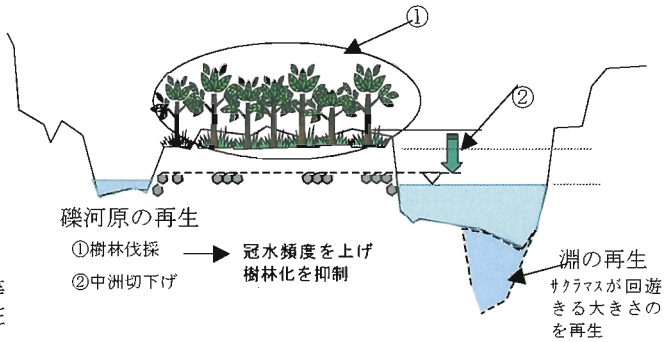
（具体箇所例）

直轄：赤川自然再生事業（赤川水系直轄総合水系環境整備事業）

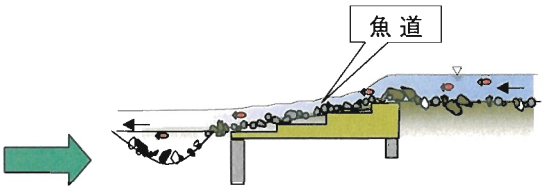
●赤川における自然再生への取り組み



▲乾燥・陸地化することにより、外来種等が繁茂した河川を、良好な礫河原の存在した昔の姿に戻します。







魚道を設置することで、魚の遡上が可能

▲魚が移動するのが困難な構造物を改良することにより、魚の棲みやすい環境を取り戻します。

＜美しい東北の実現＞

重点事項：循環型社会の構築

主な目標

①健全な水循環の確保のため、貴重な水資源の保全・有効活用を図ります。
②資源の有効利用を目指して、静脈物流システム※1の整備を図ります。
③建設廃棄物の発生抑制、廃棄物の再資源化、建設発生土の有効利用など徹底したリサイクルを推進します。
④自然を利用したクリーンエネルギーの積極的な導入を図ります。

※1静脈物流システム：消費者から排出され、利用後の廃棄物が回収、再資源化されるまでの物流システム。

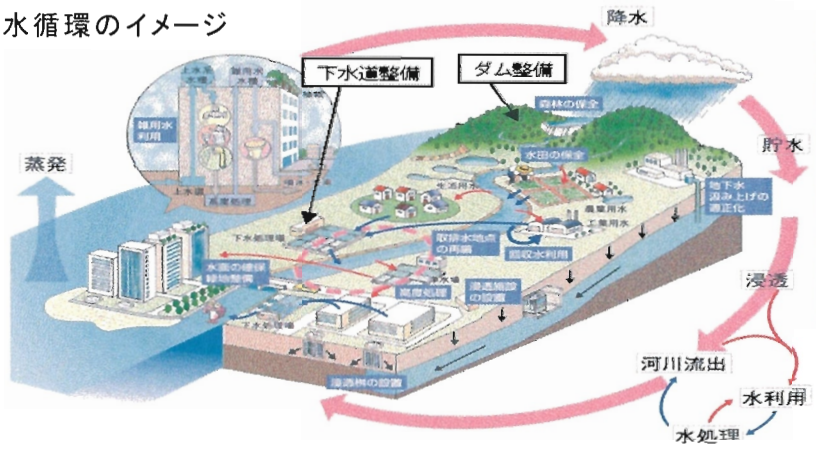
目標達成のためのH18年度の具体的な施策の例

・健全な水循環の確保のため、ダム整備により安定した水の供給と水資源の有効活用を図るとともに、流域の静脈的役割となる下水道事業を推進します。

（具体箇所例）

直轄：胆沢ダム建設事業　（別冊P.57）
補助：特定環境保全公共下水道事業（宮城県登米市）　（別冊P.59）

●水循環のイメージ





▲治水対策のほか、灌漑等水資源として大いに期待される胆沢ダム

・リサイクルポート※2における港湾整備を進め、総合的な静脈物流ネットワーク拠点を形成します。

※2リサイクルポート：広域的なリサイクル施設の立地に対応した静脈物流の拠点づくりを支援する港湾のこと。リサイクルポートにおける港湾施設の整備を進め、企業立地の促進と総合的な静脈物流拠点の形成を図ります。

（具体箇所例）

●リサイクルポートの指定により、酒田港のリサイクル関連の立地企業が増加



再資源化事例



部品等の再利用

金属、プラスチック等の再資源化

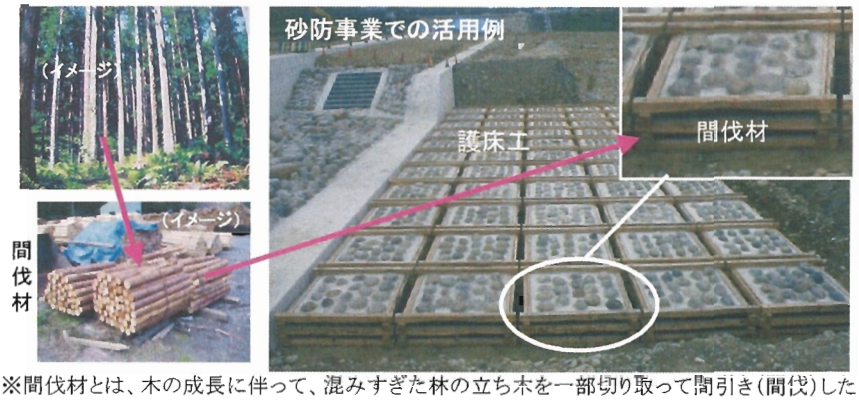
酒田港に立地の自動車リサイクル工場では、廃自動車を解体、破砕し、再利用可能な部品等に選別。

選別された鉄スクラップ等は、他港へ送られ、再利用が図られています。

・建設廃棄物の発生抑制、廃棄物の再資源化、建設発生土の有効利用など徹底したリサイクルを推進します。

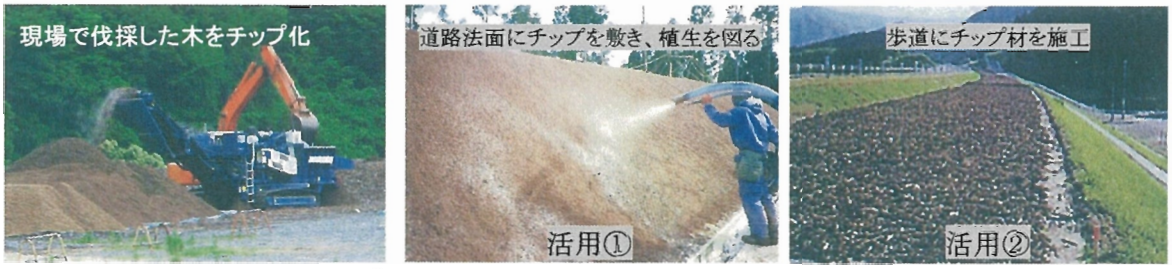
（具体的な取り組み例）

●砂防事業における間伐材を護床工に活用した事例（阿武隈川水系松川砂防事業［直轄］）



※間伐材とは、木の成長に伴って、混みすぎた林の立ち木を一部切り取って間引き（間伐）した木材。間伐により、木が生き生きと育ち、新しい森に成長します。

●「ゼロ・エミッションロード」の取り組み事例



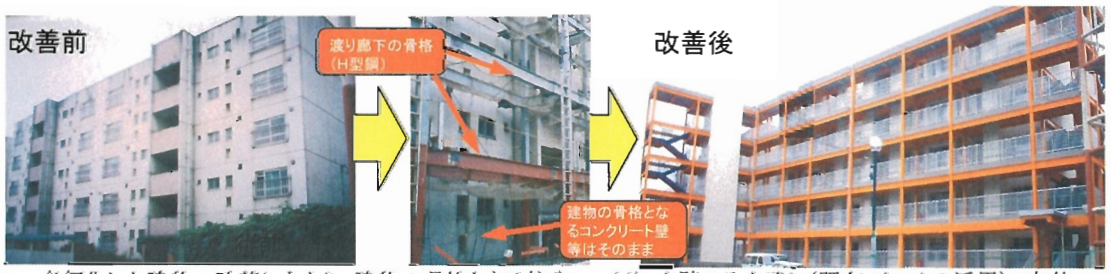
▲事業で発生する木材などの建設副産物を有効活用する取り組みを進めています。

・既存公営住宅の改善等において、既存ストックを有効に活用した効率的な整備を推進します。

（具体箇所例）

補助：仙台市営西中田住宅ストック総合改善事業（宮城県仙台市）（別冊P. 42）

●仙台市営西中田住宅における既存ストックの有効活用



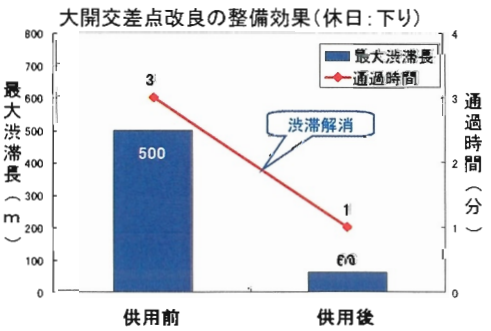
▲老朽化した建物の改善にあたり、建物の骨格となる柱やコンクリート壁のみを残し（既存ストックの活用）、内外仕上げを新たに施工

・**「CO_2削減アクションプログラム」（新規）**により、主要渋滞ポイントの解消を図り、CO_2排出を抑制します。

（具体箇所例）

直轄：一般国道４５号　八戸南道路　（別冊P. 58）

●バイパス整備等により慢性的な渋滞を解消によるCO_2削減



▲大開交差点の渋滞解消により、CO_2約1,700t-CO_2/年が削減されます。同等の効果を樹木によるCO_2吸収で得るためには、167ha（フルキャストスタジアムの約250倍）の植林が必要となります



▲国道45号　大開交差点の渋滞状況

＜魅力ある都市づくり＞

主な目標

①都市圏の交通の円滑化、環境の改善を図るため、道路交通渋滞対策を行います。
②中心市街地の活性化等を図るため、交通結節点の機能強化、街なか居住、無電柱化の推進等により魅力ある都市への再生を進めます。
③住民等が快適な生活を送ることができるよう、水と緑に親しめる都市環境の形成、沿道環境の改善を図ります。

目標達成のためのH18年度の具体的な施策の例

・交通渋滞の解消・緩和と環境の改善を図るために、各都市の規模、交通特性に応じて、道路周辺の土地利用を考慮しつつ総合的な都市交通対策を実施します。

（具体箇所例）

直轄：一般国道４号 仙台拡幅 （別冊P. 60）
補助：都市計画道路 下白銀福村線（青森県弘前市） （別冊P. 62）
都市計画道路 北四番丁大衡線（仙台市） （別冊P. 64）

●一般国道4号 仙台拡幅による渋滞解消（4車線→6車線化）



▲仙台都心の主要な幹線ルートとなっている一般国道4号



▲山崎交差点の渋滞状況



・**「路上工事抑制カレンダー」の全面展開（新規）**

データ分析により交通量の増加する日を予測し、カレンダーで路上工事を抑制する日を明示。地整内道路関係事務所にて計画的に路上工事の抑制に取り組みます。

秋田県角館地区における取り組み事例



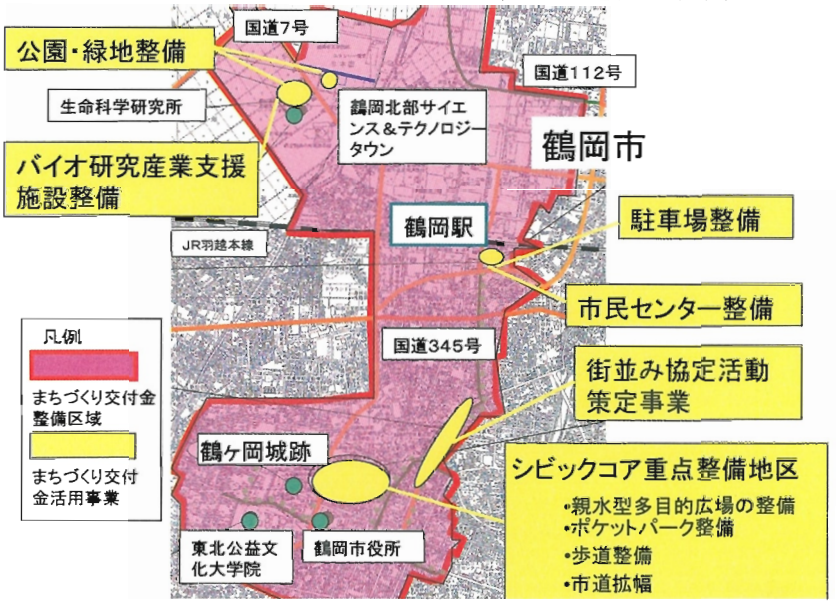
・道路の地下空間に電力線、通信線等をまとめて収容する電線共同溝の整備を進め、歩行者及び自転車を優先とする快適な生活空間を形成します。 （P.6再掲）

・中心市街地活性化を促すため、市街地再開発事業やまちづくり交付金による事業を進めると共に、個性ある街づくりを推進するため、**まちづくり交付金の市町村提案事業に係る交付割合を引上げます（新規）**。

（具体箇所例）

補助：中央一丁目第二地区第一種市街地再開発事業（仙台市）　（別冊P. 61）
吉岡南第二土地区画整理事業（宮城県大和町）　（別冊P. 63）
まちづくり交付金「鶴岡市街地区」（山形県鶴岡市）　（別冊P. 68）

●まちづくり交付金「鶴岡市街地区」における中心市街地活性化の取り組み



▲まちづくり交付金を活用し、道路、公園、建物等の整備を行い、各地区の連携強化と都市機能集積による賑わいのある中心市街地の再生を図ります。

・中心市街地における官庁施設整備において、住民の意見を採り入れた整備を進めます。

●合同庁舎周辺地区整備における地域との連携（鶴岡シビックコア地区）



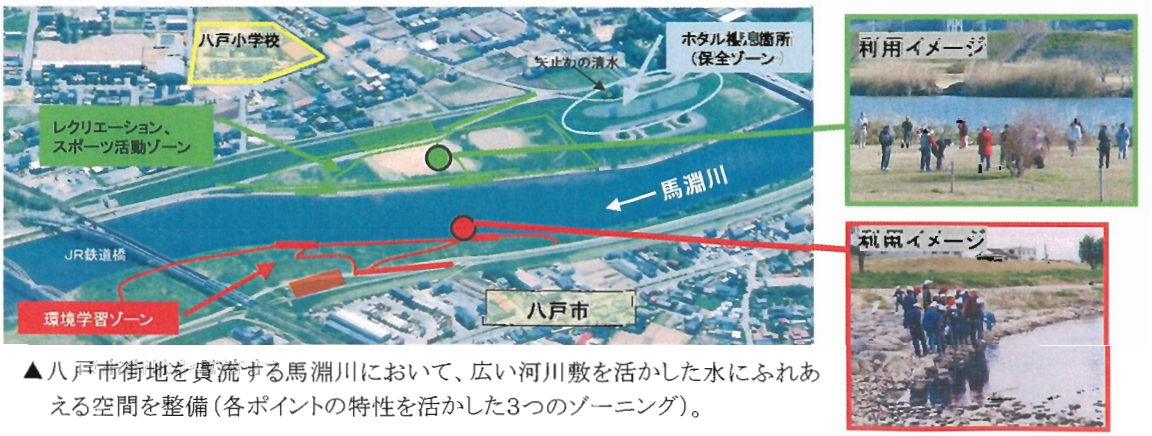
▲合同庁舎並びに周辺の整備検討にあたり、市民参加型のまちづくりワークショップを開催し、市民と行政のパートナーシップを図りながら計画の策定や管理運営・市民参加の方策等について検討しています。

・住民等が水と緑に安全に親しめる河川空間、さらには自然体験や環境学習の場となる河川空間の整備を推進します。

（具体箇所例）

直轄：水辺の楽校（がっこう）プロジェクト　馬淵川（まべちがわ）（青森県）

●自然体験や環境学習の場となる河川空間の整備



▲八戸市街地を貫流する馬淵川において、広い河川敷を活かした水にふれあえる空間を整備（各ポイントの特性を活かした3つのゾーニング）。

3．地域との対話の重視

地域との対話をすすめることにより、地域に根ざしたより良い社会資本整備・管理に努めます。

事例1　地域づくりレポーターの設置

国民の意見・要望等を広く収集し社会資本整備に反映させることを目的に住民の方々がより地域づくりに参加出来る取り組みを実施しています。



▲　地域づくりレポーター会議の開催状況

事例2　市民との対話によるみちづくり

一般国道13号古舘地区では、前囲歩道橋の改善計画について地域の皆さまの意見を伺いながら、安全な通学路の整備を進めています。



▲市民と一緒に歩道橋の取扱について検討

事例3　公共建築についてのイベントを開催

地域住民と一緒に段ボールで家を作り、町を創りあげるイベントを開催し、建築やまちづくりに対し親近感をもってもらう取り組みを実施しています。



▲段ボールの家で、小さなまちづくりを体験

事例4　ドライブ・インフォステーション

（H15.9～岩手県内）

ガソリンスタンドを道路の固定情報拠点とし、道路利用者からの情報を活用します。



▲ドライブ・インフォステーション

事例5　総合的学習への支援

酒田港では、海や港への関心を高めることを目的として、将来を担う子供達の総合学習を地域の方々と協働して支援しています。



▲砂浜に漂着した宝(ゴミ)探しをとおして、リサイクルの大切さについて理解を深めている様子

事例6　住民の「活動・交流・連携」を支援

仙台市のNPO法人「広瀬川の清流を守る会」が実施している水質保全、河川愛護（美化）、川を軸としたまちづくり等に関する取り組みを支援し、住民と一体となってより良い地域の形成を図ります。



▲「広瀬川の清流を守る会」によるホタルの移植

4．効率的な事業執行

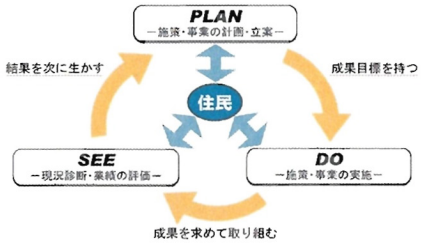
成果目標の明示や事後評価の実施を通じて透明性の向上を図るとともに、コスト縮減等による効果的な事業執行に努めます。

事例1　成果主義の実践～道路行政での取り組み例

平成15年度より、成果を重視した道路行政運営のしくみ(道路行政マネジメント)を導入し、5年後の成果目標、供用目標を示した「5年で見えるみちづくり～東北のみちサービス・レベルアッププラン～」を策定し、効率的かつ透明性の高いみちづくりを進めています。

また、各県において、事業の成果を表す指標(アウトカム指標)を用いて、数値目標を事前に設定し、毎年達成度の評価を行い、その結果を以降の施策・事業に活かすマネジメント・サイクルを実践しています。





▲マネジメント・サイクルのイメージ



▲達成報告書（アウトカム・レポート）



▲業績計画書（アウトカム・プラン）

事例2　徹底 したコスト縮減～石巻港雲雀野（ひばりの）地区防波堤整備事業の例

石巻港雲雀野地区防波堤(南)では、新構造の半没水上部斜面ケーソン堤に形状を変更して整備を進めており、従来構造形式に比べ約15%のコスト縮減を図っています。



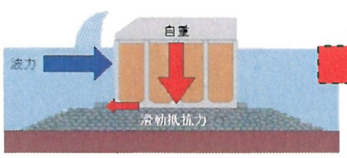
石巻港防波堤(南)の整備状況

防波堤構造の見直し

新しい構造形式では、防波堤本体の斜面を利用して水平方向の波力を分散し、鉛直下向きの力を堤体重量に加え、滑動抵抗を増加させることによって、波力を有効に分散させる“半没水上部斜面ケーソン堤”とし、従来構造形式に比べてケーソン断面と基礎構造を小さくすることで、建設コストを縮減しています。

従来構造形式

特徴
波力に対して自重で安定を保つため、ケーソン本体及び基礎マウンドが大きくなる。



新構造形式

特徴
波力の分散により水平波力は低減され、鉛直波力が自重に追加されるため、ケーソン本体及び基礎マウンドが小さくなる。

